

製作 松竹



歌舞伎座さよなら公演

御名残四月大歌舞伎

平成22年4月2日(金)初日▶28日(水)千種楽

河東節十寸見会御連中様

どうぞ
お始め下さりましょう



御名残四月大歌舞伎

助六句会

◆第三部(午後六時二十分開演)

河竹 懸岡 弥 作
一、実録先代萩

歌舞伎十八番の内

二、助六由縁江戸桜

河東節十寸見会御連中

万里子

全

恭延

全

天牛

全

ゆたか

全

正明

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全



助六由縁江戸桜 福山 かつぎ



白酒売り 新兵衛

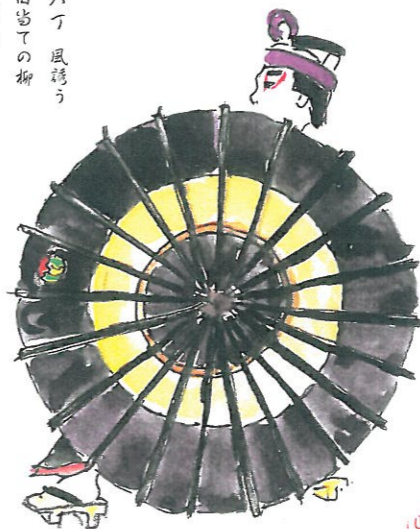


助六由縁江戸桜 揚巻



番の意休

提ハ丁風誘う
同当てる柳
花の宮



助六由縁江戸桜 花川戸 助六

〔助六〕
花川戸助六
三浦屋揚巻
通人里晩
福山かつぎ舞言
三浦屋白玉
朝顔仙平
曾我満江
腕の意休
くわんご門兵衛
白酒売新兵衛
口上
菊仁左衛門
海老蔵
團三三郎
玉三三郎
勘三三郎
福四郎
段四郎
左衛門
仁左衛門
五郎

編集 今井紀久男 事 十寸見東會
繪 會田惣一郎 事 十寸見東會

平成二十二年四月十八日(日) 青葉会総見

歌舞伎座さよなら公演

「実録先代萩」

「助六由縁江戸桜」

歌舞伎座よ今年の花よ左様なら
「先代萩」
春遅々と幼き主従泣別れ
河東節も口上もよし江戸桜
歌舞伎座もあと十三日春惜しむ
春の御簾東紀の唄ふ河東節
歌舞伎座の棹尾助六春の宵
春風や納めの助六・河東節
大和屋の妖艶花を辱しめ
(玉三郎の揚巻)
助六も母には弱し春の宵
十寸見会桜も酔はず節回し
口上を述べる所作芸粋の花
春惜しむまして歌舞伎座消える春
名優競演これ千金の春の宵
助六は團十郎が咲かす花
花の春煙管(きせる)の雨を降らさばや
春蘭(さ)けし江戸が匂ふや河東節
歌舞伎座や役者も惜しむ四月尽
歌舞伎終へ松葉最中に春惜しむ
春宵や玉三郎にて幕となり
助六の紙子に厚き母の愛
助六や見返る歌舞伎座花しぐれ
歌舞伎座のいよよ見納め花灯り
逝く春や名残り舞台の眩ゆくも
碧眼も惜しむ建替へ月朧
父の忌に名残りの舞台春の雪
夜桜や稽古に駄目押す團十郎
花の雨帯の絵に凝る十寸見会
歌舞伎座に京ことば聴く春の宵
威勢よき出前の啖呵花吹雪く
(三津五郎の福山かつぎ)
歌右衛門偲ぶ舞台や花に雪
句を作る楽屋に鬚眉の梨花桜花
敵役(かたきやく)女形(おやま)相部屋桜餅
梨の花手渡す束に咲き初めし
(河東節十寸見会楽屋)
花衣ロシアの人と芝居見に
青葉風最期の歌舞伎座吹き抜けり
玉さんと呼びしグリーク夏近し
歌舞伎座の椅子に一札春深し
歌舞伎座の取りを飾るや江戸桜
海老蔵の口上客席に柳絮かな
お名残りの歌舞伎座はねて月おぼろ
賑やかに名残惜しまむ江戸桜
吉例の河東を聴きて四月尽
御簾奥(みすおく)の声艶(こ)きめけり春舞台
歌舞伎座の名残りかさねて花の夜

